

報告書整理番号第101号

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ  
特別委員会県内調査報告書

平成30年10月29日（月）に、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について」及び「大会の安全な運営について」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 桐 生 秀 昭 殿

東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ  
特別委員会 委員長 原 聡 祐

東京オリンピック・パラリンピック・  
ラグビーワールドカップ特別委員会  
県内調査報告書

平成30年10月29日（月）

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、選手村、カヌー・スラローム会場
- (2) 出席委員 原委員長、神倉副委員長、川本、山口(貴)、国松、いそもと、中村(武)、作山、渡辺(ひ)、近藤、楠の各委員
- (3) 調査日 平成30年10月29日(月)

## 2 (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

### (1) 調査目的

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、東京2020オリンピック・パラリンピックについて大会ボランティアの募集、運営を行っている。大会ボランティアは、競技が行われる会場や選手村、その他大会関連施設等で、観客サービスや競技運営のサポート等大会運営に直接関わる活動をする。

神奈川県でもサッカー及び野球・ソフトボール競技の開催会場である横浜市、セーリング競技を開催する藤沢市で都市ボランティアの募集を行っている。

そこで(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会における大会ボランティア募集等の取組を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

### (2) 主な説明項目

大会ボランティアの数は、ロンドン大会が7万人、リオ大会が5万人だった。東京大会は8万人を予定している。ロンドンの7万人は大きい規模であったが、さらにそれを上回る規模である。

ボランティアは大会ボランティアと都市ボランティアの2種類があり、リオ大会ではそれぞれユニフォームが異なっていたが、東京大会では基本的には同じにしようかと考えている。大会ボランティアは大会に直接関わって運営をサポートしていく役割。一方、都市ボランティアは、東京で言えば主に観光案内を担っていただくことになる。都市ボランティアは競技を開催する自治体で募集をするが、東京都では3万人の都市ボランティアを予定している。

活動場所は、競技会場、選手村、メインオペレーションセンター、各会場の関連施設等になる。活動分野は九つに分かれており、ボランティアの方にやりたい分野を選択していただく。分野を指定しないという選択も可能であり、その場合は9つの分野から組織委員会を選ぶことになる。活動期間は基本的に10日以上と考えている。ただ、活動内容によっては、10日を要しないものもあるので、申し込みには10日未満という選択も可能となっている。真夏で暑さが心配なので、連続して活動していただくのは5日間までとし、休みを入れて引き続き活動していただく。活動時間は休憩・待機時間を含めて

1日8時間程度としている。競技によっては待機時間が長いものもあるので、継続して8時間ずっと活動するということはない。

応募資格は18歳以上としている。若い学生、児童については別の範ちゅうでやれることはやっていきたいと考えている。活動期間中において、日本国籍または日本に滞在する在留資格を有する方が対象になる。人物像としては、熱意を持って取り組んでいただける方、知識、経験があることが望ましいが、必須の条件ではない。英語についても、能力があれば望ましいが、必須ではない。

応募の締め切りは12月上旬。2019年2月頃から7月頃までオリエンテーションを行うが、基本的な説明の他、グループでの面談を行う予定である。その後、10月頃から共通研修に入っていただく。役割別、リーダーシップ研修なども順次開催していく。オリエンテーションや研修は、都内だけでなく地方でも行う。また、オリエンテーションについては、一人一回参加していただき、海外からの応募者にはテレビ電話等の利用を考えている。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 大会ボランティアと都市ボランティア合計で11万人を募るとのことだが、ボランティアの宿泊先はどうするのか。

**応 答** ご自身でホテル等の宿泊先を確保していただく。宿泊先から決められた会場までの交通費相当として、1日当たり千円程度のプリペイドカードを配布する。食事と飲み物は支給するが、宿泊先は準備できないということでご理解いただいている。

**質 疑** 4割が地方で行うとのことだが、ボランティアに偏りが出ると思うがどのように考えているか。

**応 答** 先ほど説明した4割というのは地方で行われる競技の数であり、その多くはサッカーの予選となる。したがって、オリンピックの前半で地方の役割は終えることになり、後半はほとんど首都圏の東京、神奈川、千葉、埼玉に集中することになる。

**質 疑** 説明は大会ボランティアについてと思ったが、都市ボランティアも同じような受け止めでよいのか。

**応 答** 都市ボランティアについて各自治体と連携はしているが、基本的には各自治体でということになっている。それぞれの自治体で微妙にスキームや応募の仕方が違っていると聞いている。

**質 疑** 都市ボランティアの3万人とは東京都の人数か。

**応 答** そのとおり。東京都は3万人と把握しているのだが、他の自治体はそれぞれ人数がばらばらであり、聞いているだけでも400人から多いところでは5,000人超えというところもあるので、自治体によってそれぞれだと認識している。

**質 疑** 現状の募集の状況が順調なのかということと、どのような方が応募しているか、傾向があれば教えていただきたい。それと、大会ボランティア8万人の根拠について教えていただきたい。

**応 答** まず、募集状況であるが、10月22日時点の状況を23日に発表している。応募手続きが完了しているのが52,249名。完了途中

を含めるともう少し多くなる。10代から30代までで、だいたい半分くらいとなっており、若い方に積極的に応募していただいている。また、女性が6割を占めている。8万人の根拠であるが、もともとはロンドンの7万人を参考にしていて、東京大会については大変関心が多くてなるべく多くの方に参加していただきたいということもあって、招致の時に8万人が必要ということを示した。

**質 疑** 活動中の飲食の提供など、ボランティアのルールがいくつかあると思うが、このルールは何かを参考にしたのか。もう1点は、案内等で語学が必要になると思うが、オリパラとなるとかなり多くの言語の対応が必要になると思う。どのように考えているか。

**応 答** 食事や交通費などのいわゆる処遇については過去の大会を参考にしており、ロンドンやリオでも食事がしっかりと提供されていたこと、交通費についても全額支給ではなく一定程度支給されていたこと、宿泊についても基本的には自己手配だったことを参考にしながら、組織委員会でボランティア検討委員会を立ち上げて、有識者の方々、これはボランティアの経験者からマネジメントをやった方々、大学の先生方や法律家など、色々な方のご意見をお伺いして最終的には決定している。

2点目の言語についてだが、今、色々なところに応募促進のお願いをしており、例えば企業にお伺いすると、駐在経験がある方がいてタイ語が出来る方がいたり、大学を回ると外国人の留学生がいて中国出身の方がいたり、いろいろなところにお伺いして直に触れ合いながら応募のお願いをしている。

**質 疑** 案内となると広く対応をしなくてはならないが、今話にあった少ない言語に対応できる方は必要性の高いところに優先的に配置をしていくのかと思う。そこで、翻訳機を貸し出すとか設置するといった取り組みは考えているか。

**応 答** そういう話もあったが、予算との兼ね合いもあり、大会ボランティアでは翻訳機は考えていない。ボランティアの方々に使っていただくのは基本的なコミュニケーションということで、「ハロー」とか「サンキュー」レベルが出来ればよいと思っていて、例えばクレームの対応や急病人の対応などについては、お金を払ってプロの通訳の方に対応していただこうと思っており、そこは線引きをしている。賑やかして楽しんでいただくということをボランティアに使っていただく一方で、責任が発生してしっかりと業務としてやっていただくところについては、委託でお願いしようと考えている。

**質 疑** 自治体とのコミュニケーションについて伺いたい。逗子市・葉山町がセーリング競技の海域であるが、既にイギリスやスペインのチームがキャンプを張って練習しており、一般の方々と

のコミュニケーションは始まっている。それぞれの自治体に任せるにしても足並みがばらついていけないし、どのように地方のボランティアをコーディネートしていくのか、もう少し具体的に教えていただくと、我々としてもできることがあるのかと思う。

**応 答** 観客の目線に立った時に、駅から会場までの案内は都市ボランティア、会場に入った後は大会ボランティアということで、一つの線になっているので、当然自治体との連携は行っている。その上で、例えば先日藤沢市でフォーラムが開催されたときには、組織委員会から講師として参加させていただき、先週末は鹿島でイベントが開催されたので、そこにも参加させていただいた。そもそもボランティアのことが分かっていない方も多くいるので、まずはボランティアには2種類ありますよ、それぞれ役割はこうですよ、両方申し込むこともできるということ、自治体と連携しながら紹介をしている。

**質 疑** 申し込みは自治体に対して行うのか。

**応 答** 都市ボランティアについては募集をしている各自治体になり、大会ボランティアについては組織委員会となる。例えば藤沢市の事例は我々にとっては非常に良い話だと思っている。2019年の春先からはオリンピックのテストイベントが全国的に始まる。競技会場のある都市や近隣都市の方々にとっては、やっと目の前でオリンピックムーブメントが巻き上がる瞬間だと考えている。そうすると各自治体が募集する都市ボランティアに対する理解や参画意識も醸成されてくるのだと思う。

藤沢市と申したのは、セーリングについては他の競技に先駆けて今年の夏にセーリングワールドカップが実質的な第1回のテストイベントということで開催された。

やはり目の前で各国の国旗や多くのメディア、高円宮様がおいでになられたりして地元では非常に盛り上がり、それが自然に口から口へ伝わっていくという現象が江の島界限でも起きており、非常に良い流れだと我々は思っている。

本番または来年の夏に2回テストイベントとワールドカップが立て続けに予定されており、その時には今年よりもっと広域の自治体を巻き込むような形での開催ということも計画している。大会が大きくなればなるほど、艇を移動しなければいけない。

葉山や逗子などの近隣のマリーナにお願いして艇の一時預かりや保管・管理をご協力いただいているところであり、そうすると開催はされなくてもオリンピックに参加しているという意識を自然と持ってもらえる。

もちろんお金が絡むことであり、交渉事は待っているわけではあるが、ただ、目の前で、むしろ江の島より逗子や葉山から

の方が6海面ある一番東側の海面は良く見えるということもあるので、本番に向けて、今年、来年、それから2020年の春に予定されているワールドカップ、この3回を使って地元の盛り上げを考えていきたいと思っている。

また、自転車のテストイベントを来年の夏に予定している。東京の武蔵の森から最終的には静岡県の富士スピードウェイ、ここまでのトライアルをやろうと思っている。具体的なコースはこれからであるが、いずれにせよ相模原市の協力を相当お願いする話なので、そういったことで1年前からにはなるが、地元と一体化した運営を図っていきたいと考えている。

質 疑 ボランティアに参加する動機の一つにグッズがあると思うが、これは都市ボランティアも貰えるのか。

応 答 大きな話はユニフォームだと思うが、組織委員会だとキャップ、ジャケット、パンツ、帽子、バッグなどを揃えていく予定である。なるべく特別感を味わえるものということで、大会ボランティアだけでなく、都市ボランティアの方にも、予算は自治体持ちにはなるが同じようなものを準備していきたいと考えている。

質 疑 ロンドン7万人、リオ5万人という説明だったが、元々この人数で設定して、その結果この人数だったのか。国柄等もあるとは思いますが、直前になってやっぱり行かないという方も出てくると思う。また、現在5万2千人程度の応募があると伺ったが、活動場所や役割のマッチングがされた人数なのか。それと、8万人の中には直前になってやっぱり参加できなくなる方が出てくると思うので、実際にはどのくらいの人数を、予備として想定しているのか。申し込みは自治体に対して行うのか。

応 答 ロンドンとリオは結果的にこの人数だったと思う。また、東京大会の8万人についてだが、東京大会は会場が43あり、地方にまたがっているが、ロンドンの場合はオリンピックパークがあって非常にコンパクトだったので、その分ボランティアの人数も少なく済んだ。東京の場合はかなり広がっているのでボランティアの数も多くないと中々スムーズにいかないと考えている。大会運営の計画が進んでいくにつれて、必要なボランティアの人数というのも日々動いていく状況らしく、リオの場合は当初想定していた数より1～2万人減ったようである。

どれくらいの予備率ということだが、基本的には予備は考えておらず、ボランティアなので絶対に来てください、ということには言わないにしても、私たちの期待値としてお伝えしているのが、あなた達は大切な一人ひとりなのだから、応募したら来てください、ということをお伝え続けることで、全員に来ていただきたいという思いを持っていて、万が一人員が足りない状況になったら、過去大会の状況では、一人に対応していただく時

- 間を長めにしてもらったりしてカバーしていると聞いている。
- 質 疑 神奈川の場合、野球やセーリング等があるが、ここでやりたいという希望があった場合、空きがあれば可能なのか。
- 応 答 基本的に選べるのは、どの県で、どの役割でというレベルである。ただ、参考にしていきたいのが、どこにお住まいかということ、それと今までにどんな競技をやっていたか、どんな経験があるか、例えば子どものサッカーのコーチ経験があるということであれば運営の上で役に立つと思うので、そういった経験は応募者に聞いていて、あらゆる情報を見ながらマッチングの作業をしていく。
- 質 疑 大学生やリタイアされた方々は良いが、そうではない方は熱意があっても、できる環境という問題があると思うが、応募された方への後押しや企業等への働き掛けやお願いはしているか。
- 応 答 学生に関しては文科省から文書を出してもらって、できるだけ学生が参加しやすいような配慮をお願いしている。何をどうするかということは大学が自主的に決めていくことではある。企業については、ボランティア休暇がある企業とない企業があると思うが、経団連や協議会等を通じて出来るだけ手を挙げた方には参加できるようにお願いしたいと、特に中小企業の方は続けて参加することは難しいという意見を聞いているので、そのような意見も参考にして10日未満という枠も作った。したがって、企業には、そういった熱意のある方には参加できるように配慮していただきたいとお願いしているところである。



#### (4) 調査結果

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にむけて、大会ボランティアの募集、研修等を計画的に取り組んでいる。

以上のように、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委



員会における大会ボランティアの取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

### 3 選手村

#### (1) 調査目的

東京都は、晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業に平成28年4月に着手し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村の整備と大会後のレガシーとなるまちづくりに取り組んでいる。

また、県では大磯町に選手村の分村を設置することから、選手のための環境づくりが必要になっている。

そこで、選手村の整備状況を調査することにより、本県の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村の環境づくりに関する委員会調査の参考に資する。

#### (2) 主な説明項目

14階から18階建ての建造物を21棟建てる計画となっている。オリンピック時には1万8,000ベッド、パラリンピック時には8,000ベッドとなる。土地は東京都の所有だが、特定建築者制度を活用して民間事業者が建物を建てていただいている。

空地の部分にメインダイニングやビレッジプラザ等を建設する予定だが、セキュリティの関係でまだ詳細な情報は資料では示せない。

大会中は組織委員会が家賃を払って借りていく。大会後は建築した民間事業者がマンションとして売却していく。大会後には50階建ての高層棟が2棟建つ予定となっており、最終的には5,650戸マンションとして販売される。

#### (3) 主な質疑応答

- |     |  |
|-----|--|
| 質 疑 | 選手村のセキュリティ対策はどうするのか。   |
| 応 答 | 敷地は3メートルのフェンスで囲う。入口にセキュリティチェックのポイントを設けて身分証のない方は入れない。ただビレッジプラザについては、選手の関係者を招き入れたりすることが出来るので、証明書を発行して入っていただくことになる。 |
| 質 疑 | フェンスは大会が終わったら撤去するのか。   |
| 応 答 | そのとおり。   |
| 質 疑 | 開催が早い競技と遅い競技があると思うが、一部屋で選手の入れ替わりはあるのか。   |
| 応 答 | 組織委員会が部屋の割り振りを各国と調整しているが、基本的には選手が入れ替わりで使うということは想定していない。  |
| 質 疑 | 選手村としては何部屋あるのか。一人一部屋か。   |
| 応 答 | 部屋数は3,800戸であるが、一人一部屋とは限らない。部屋を区切って、男女別、国別で複数人で使用する。  |
| 質 疑 | アクセスに海路はないのか。専用道路は作るのか。  |
| 応 答 | 今のところ、海路も専用道路も計画していないと聞いている。基本的にはシャトルバスで移動することになる。   |
| 質 疑 | 大会後にマンションとして販売するとなると、3DKとか3LDKという間取りの中で、室内を改修するのか。   |
| 応 答 | かなり内装は変えることになる。選手村としてはお風呂やトイレを一つの住戸に二つ設けたりするので、そうすると一つは取ら  |

なければいけない。

質 疑

どこの会社が入っているのか。

質 答

11社入っている。長谷工、三井住友や大和ハウスなど。

質 疑

民間が建てて大会期間中は組織委員会が借り上げるということであったが、改修工事費はどこが出すのか。

質 答

大会のための改修費は組織委員会が出す。住宅に戻すときの改修費は特定建築者が出す。

質 疑

土地はずっと東京都が民間に貸すのか。

質 答

大会が終わった後に都が特定建築者に売却する。購入者は底地も区分所有となる。東京都が所有しているのは大会期間中まで。

質 疑

購入の際、改修費用が乗るので割高にならないか。

質 答

まず特定建築者は躯体だけを作り、大会用の改修は組織委員会が行う。そして大会終了後に特定建築社が内装の改修を行うので、建物に費やすお金はトータルでは変わらない。

質 疑

なぜ、この土地は空いていたのか。

質 答

公園だった。一時期は展示場を造ったりもしていた。

質 疑

津波の心配はないか。

質 答

津波が来たとしても想定では1.5～2メートル程度。ここの地盤高が4メートル弱なので大丈夫である。

質 疑

1万8,000ベッドはオリンピックでは標準的な数なのか。

質 答

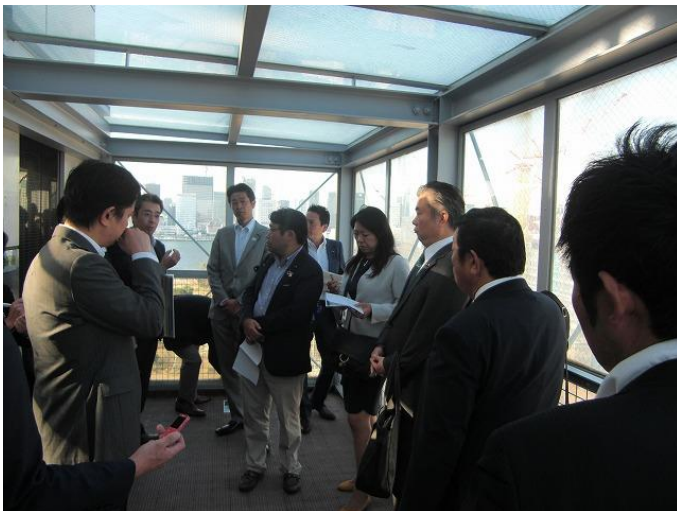
過去大会も1万8,000ベッドである。

質 疑

セーリング競技は大磯のホテルを選手村として活用するが、東京の場合はホテルを活用した選手村というのは存在しないのか。

質 答

オリンピックの理念として、選手の交流というのがあるので、来て競技するだけでなく同じところに集まって交流するというコンセプトがあるようである。お金を持っている選手でも選手村に泊まってみんなと交流したいという思いがあるようだ。



#### (4) 調査結果

選手村は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、選手の利便性、セキュリティを視野に入れた整備を進めるとともに、大会後の

レガシーを見越したまちづくりを進めている。

以上のように、選手村の整備に係る取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

## 4 カヌー・スラローム会場

### (1) 調査目的

カヌー・スラローム会場は、葛西臨海公園に整備される施設である。水路に人工的に流れを作り出し、競技を実施することができる国内で初めてのコースがある施設である。また、大会後はラフティングも楽しめる、周辺の公園や水域と一体となったレジャー・レクリエーション施設として利用できるように整備を進めている。

本県においても、いくつかの大会競技の実施が予定されており、カヌー・スラローム会場の整備状況を調査することにより、本県の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における施設の運用方法等に関する委員会調査の参考に資する。

### (2) 主な説明項目

工事の進捗状況は57%程度であり、工期は2019年5月末を予定している。競技は2020年7月26日から31日までの6日間行われる。競技種目はカヤックのシングルとカナディアンシングルで、カヤックとカナディアンの違いは、カヤックは両方にパドルがついていて、カナディアンは片側のみとなる。

自然の河川を使って競技を行うこともあるが、ロンドン大会では人工の会場で行っている。

葛西臨海公園隣接地に位置するが、当該公園は年間300万人の方が利用する。座席数については、現在、組織委員会とIOCで調整中ではあるが、立候補ファイル上は1万5,000席(仮設)を予定している。競技コースの長さは200メートル、ウォーミングアップコースが180メートルの長さで、ほぼ同等のものになる。

この施設の大会後の利用についてだが、主なレガシーとして、アスリートの強化・育成をしていく施設という点と、一般の方々に様々な水上スポーツや水上レジャーの機会を提供していくということで、アスリートの視点と一般都民の視点で考えている。

アスリートファーストの視点としては、カヌーを始めとした水上競技の国内大会、国際大会の誘致・開催をしていくということで、目標としては、年間7大会を誘致していこうと考えている。都民ファーストの視点としては、水上スポーツ体験やラフティングといったものを考えており、一般の方々にも使っていただけるよう水上レジャーの提供をしていきたいと考えている。また、水難救助訓練など、レジャーだけでなく多目的な利用ができるようにして、隣接の臨海公園、海浜公園との連携により賑わいを創出していきたい。年間の来場者目標は10万人。内訳は競技利用3万人、一般利用7万人を想定している。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 客席に屋根はつかないと思われるが、暑さ対策はどのようにするのか。

**応 答** 大会期間中の暑さ対策については、この会場に限らず組織委員会で検討していただいている。

**質 疑** 総工費はどのくらいか。

- 応答 73億円である。  
 質疑 大会後この施設の管理は、指定管理になるのか。それとも都が直営で管理するのか。
- 応答 指定管理となる。  
 質疑 まだ決まっていないかもしれないが、指定管理料はおおよそどのくらいになるか。
- 応答 指定管理料は決まっていないが収益は公表している。施設の維持管理に年間約3億円、収入は1億数千万円の見込み。単純に見るとマイナスになるが、それ以上に都民に利便を与えると考えている。公園なども損益だけ見てしまえば赤字にはなる。
- 質疑 今の話だと73億円かけて造り、3億円の維持費が毎年かかる一方、収益は1億数千万円とのことだが、ずっと赤字が出続けるということか。
- 応答 今の収支計算ではそのとおりだが、指定管理を導入して、なるべく収益を上げていただくような努力をしていきたい。
- 質疑 都民ファーストと言いながら、都民がどこまでそれを望んでいるかと思った。
- 応答 なかなか経験できないラフティング体験ができるようになったり、あとはこの施設が出来ることで、地元ではカヌー連盟が新たに発足したりして、子ども達のカヌー体験ができるようになったり、カヌーというスポーツや水上スポーツに触れるきっかけができるのかと思う。
- 質疑 選手村は大会が終わった後に売却ということだったが、この会場で国際大会を開くときに、競技者はどこに宿泊するのか。
- 応答 隣接の葛西臨海公園内にホテルがある。また、車で15分程度の位置にお台場の臨海副都心地区があり、そこにホテルがたくさんあるので、そういったところを利用していただくことになるのかと思う。
- 質疑 この土地は駐車場だったとのことだが、それをカヌー・スラローム会場にしてしまったら、葛西臨海公園の駐車場が足りなくなってしまうのではないか。
- 応答 メーンの駐車場は別のところに1,000台程度あるので、ここは臨時駐車場としてゴールデンウィークや夏休みといった時期にのみ使っていた。全部で駐車場は第1から第4まであって今でも2,000台程度駐車容量はあるので、これまで路上に車があふれるなどの混乱は起きていない。
- 質疑 この競技は自然の渓谷を使って出来ると思うが、過去の大会を踏まえて、そういった検討はしなかったのか。
- 応答 カヌー・スラロームの国内の大会だと、石川県などで開催されている。雪解け水を使って水量が一番出る時期を狙って大会を開催している。そういった会場だと、年間一定の流量がないというのが現状である。選手が海外で練習をしているというのは、年間

を通じて安定した環境でスラロームの練習ができるのが場所が国内にはないということである。したがって、国内初のスラローム会場が出来れば、年間いつでも同じ流量で練習が出来るということで、安定した練習環境で今後アスリートの育成という面では環境が整えられるのかと思う。

質 疑  
応 答

コースに変化はつけられるのか。

用途によってポンプ室で流量の設定をする。また、障害物も配置を自由に変えられるので、例えばトップアスリートの大会、ジュニアの大会でそれぞれそれに合わせて、水の流れやコースのレイアウトを変えられる。



#### (4) 調査結果

カヌー・スラローム会場は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と大会後の選手の育成と一般利用者にとってもレクリエーション施設として有効な施設として活用できるように整備を進めている。

以上のように、カヌー・スラローム会場の整備に係る取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

〈参 考〉

- 1 随行者 松本主任主事(議会局議事課)  
小宮山副主幹(スポーツ局総務室)  
佐伯警部(警察本部総務部総務課)  
河部課長(スポーツ局オリンピック・パラリンピック課)  
矢島課長(スポーツ局セーリング課)
  
- 2 調査箇所側出席者
  - (1) (公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会運営地方会場調整室長、  
(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会総務局次長、同ボランティア推進部部長、同ボランティア推進部係長
  - (2) 選手村  
東京都オリンピック・パラリンピック準備局総務部全国自治体調整担当課長、同大会施設部選手村担当課長
  - (3) カヌー・スラローム会場  
東京都オリンピック・パラリンピック準備局大会施設部施設整備担当課長